

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立芸術文化センター
施 設 名	兵庫県立芸術文化センター
助成対象活動名	ひょうご舞台芸術魅力拡充事業
助 成 期 間	3 (年間)
内 定 額	57,886 (千円)

### 4 事業計画の概要

#### 全体図(概念図)

### (事業名) ひょうご舞台芸術魅力拡充事業

舞台芸術を通じて人とまちを元気にし、県民の幅広い期待に応えるための3つのミッション(①人々が元気で輝き続けるための劇場、口  
②地域に愛される劇場、③にぎわい拡大の核となる県(圏)域における拠点劇場)を遂行するため、地域の特性・ニーズと芸術文化  
センターの強みを十分に生かした、ひょうご舞台芸術魅力拡充事業を、4つの観点を踏まえ、次の事業区分に基づき、平成30年度  
から3か年計画で実施していく。(平成28年度から通算5か年計画)

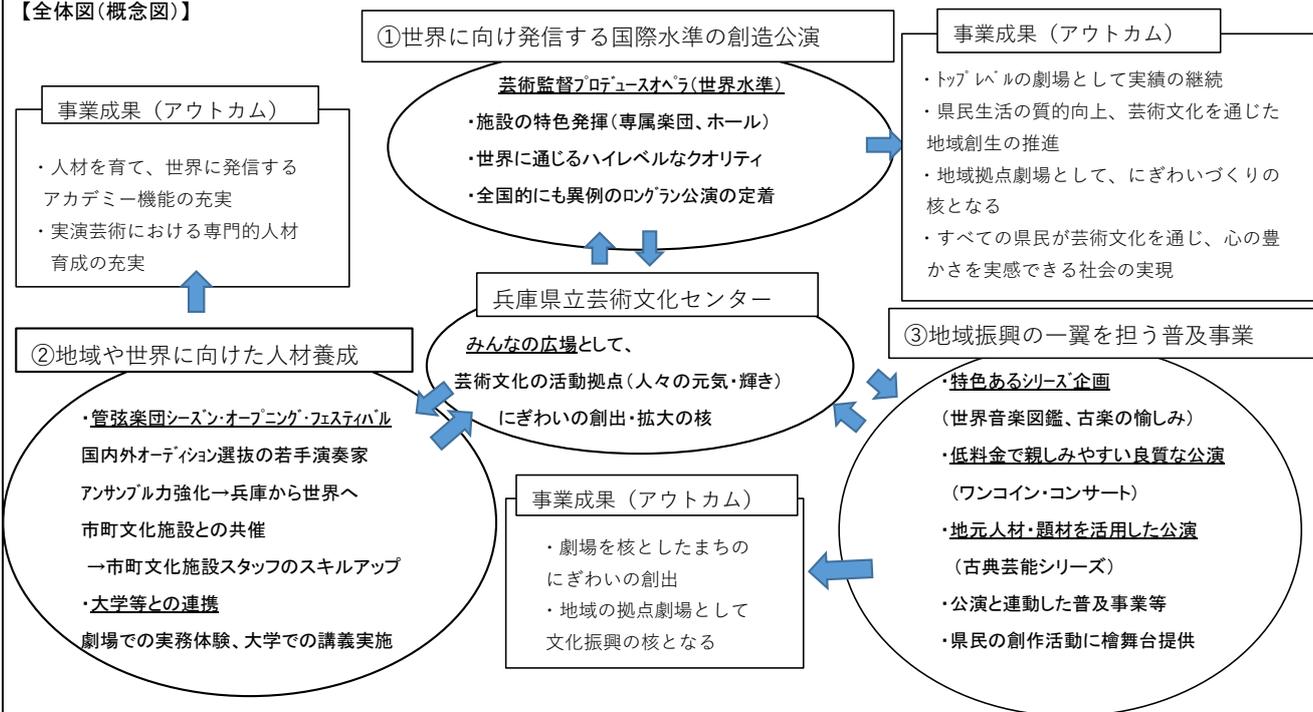
#### 【観点】

- ①文化芸術領域における国際プレゼンスの向上
- ②地域における社会的課題解決に対する寄与
- ③鑑賞及び文化芸術活動を行う国民の拡大
- ④持続可能な創造活動の体制確保

#### 【事業区分(ミッションの遂行)】

- ①世界に向け発信する国際水準の創造公演
- ②地域や世界に向けた人材養成
- ③地域振興の一翼を担う普及事業

#### 【全体図(概念図)】



#### 【事業詳細】

#### 1. 世界に向け発信する国際水準の創造公演

##### 〈具体的事業〉

佐渡芸術監督企画によるプロデュースオペラ

##### 〈事業特色〉

- ・開館以来12年間、芸術監督の経験と芸術文化センターの特色(専属管弦楽団と四面舞台の大ホール)を発揮し、兵庫発のオペラプロジェクトとして新しいオペラ層を開拓、全国的にも類を見ないロングラン公演を定着(同一会場、同一演目8公演以上)
- ・オペラ鑑賞の初心者から楽しめる親しみやすい演目と低料金に抑えた入場料(戦略的な広報宣伝活動で多回数の公演を実現し、収入を確保)により、オペラ層の裾野拡大
- ・関連事業としてハイトコンサート、プレクチャー、ワークショップ & バックステージツアー、地域と連携した前夜祭などを実施、総合舞台芸術であるオペラの鑑賞機会拡大や舞台鑑賞力向上、地域の魅力向上とさらなるにぎわいづくりによる活性化を図る。

#### 観点への取組

- ・世界トップレベルのキャストやスタッフの招聘により、兵庫から世界に向け、国際水準の芸術性を備えたオペラ公演を実現し、我が国の実演芸術の国際プレゼンスに貢献(観点①)している。
- ・持続的な組織活動(観点④)に基づき、劇場を核とした街のにぎわいの創出(観点②)に寄与するとともに、国民の鑑賞活動の拡大(観点③)を図っている。

## 2. 地域や世界に向けた人材養成

〈具体的事業（取組）その1〉

専属管弦楽団の設置と「シーズン・オープニング・フェスティバル」の開催

〈事業特色 その1〉

・専属管弦楽団（通称：PAC）の設置

世界各地より選抜した若手演奏家（H29.9現在13か国、平均27歳）で構成、佐渡芸術監督のもとで演奏力を強化し、年間通じて多彩な公演活動を展開、活動退団後、国内外のプロオケ主要メンバーとして転出、世界的な演奏技能向上に寄与

・「シーズン・オープニング・フェスティバル」の開催 オークストラガミーの要素を持つPACがシーズン・スケジュールの初め（9月）に、佐渡芸術監督のもと、各パートにスペシャリストプレイヤーを招聘し、レベルアップ強化を図る合宿を県内文化施設と共同で開催

### 観点への取組

・創造集団であるPACの設置・運営は、芸術文化センターが掲げるミッション遂行のための強みであり、持続的な組織活動（観点④）を支える柱であるとともに、アカデミー機能として世界に向けて優秀な人材を輩出することで、国際プレゼンス向上を發揮（観点①）

・県内各地域で行う「シーズン・オープニング・フェスティバル」は、演奏会の他にもアウトリーチ活動等で、地元住民に鑑賞機会場の場を設け、地域の音楽文化の熟成と地域のにぎわい作りに寄与（観点②、③）するもとともに、県内文化施設スタッフのスキルアップに貢献（観点④）

〈具体的事業（取組）その2〉

大学等との連携

〈事業特色 その2〉

アートマネジメントや舞台技術を学ぶ学生に、舞台制作、広報、音響業務実習等の劇場運営にかかる講義を大学等と連携して実施。芸術文化センターでの現場体験プログラムも取り入れ、これからの舞台芸術を支える専門的人材を育成

### 観点への取組

芸術文化センターが有する専門的知見を次世代につなげ、さらなる文化芸術領域の発展とそれがもたらす地域における社会的課題解決及び持続可能な創造活動の体制確保を目指す（観点②、③、④）

## 3. 地域振興の一翼を担う普及事業

〈具体的事業（取組）その1〉

特色あるシリーズ企画 「世界音楽図鑑」 「地元人材・題材による古典芸能シリーズ」

〈事業特色 その1〉

日本では鑑賞機会の少ない世界各地の民俗音楽やパフォーマンスをシリーズで紹介（「世界音楽図鑑」）や兵庫県ゆかりの演目や人材を古典芸能で取り上げ、地域の魅力を再発見する企画など特色あるラインナップの提供で、県民の幅広い期待に応える。

### 観点への取組

新たな音楽ファン層や伝統芸能ファンの開拓とともに普及・鑑賞機会の増大を図り（観点③）、地域における社会的課題の解決に寄与する（観点②）

〈具体的事業（取組）その2〉

「ワンコイン・コンサート」、「バックステージツアー」

〈事業特色 その2〉

兵庫・関西ゆかりの新進気鋭の音楽家による「ワンコイン・コンサート」は、広範囲な集客を招き、舞台芸術ファンの裾野拡大と若手演奏家への演奏機会の提供による人材育成を図る。

子どもを含む幅広い年代を対象に、劇場の舞台費や舞台機構、公演作業の様子等を案内する「バックステージツアー」を開催

### 観点への取組

・「ワンコイン・コンサート」終了後には多数の来館者が周辺の商業施設を回遊し消費活動を活発化させるなど、地域のにぎわいづくり、経済波及効果に大きく貢献（観点②、③）

・年6回程度開催する「バックステージツアー」は、舞台の裏側を見せることで、普段、芸術文化に接する機会の少ない人々にも舞台芸術への興味を喚起させるとともに、開催の事業のうち、1回を夏休み中に実施（夏休みの自由研究題材提供等）し、幅広い年代での来館を誘致し、次世代に向けた芸術文化ファンの取込みを展開（観点②、③）

(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			目標値	実績値
1	佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ 魔弾の射手	平成30年7月20日(金)～29日(日)	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール	[指揮] 佐渡 裕 (芸術監督) [演出] ミヒャエル・テンメ [管弦楽] 兵庫県立芸術文化センター管弦楽団_他	目標値	13,436
					実績値	12,966
2	兵庫県立芸術文化センター管弦楽団 シーズン・オープニング・フェスティバル	平成30年9月5日(水)～8日(土)	たんば田園交響ホール	[指揮] 佐渡 裕 (芸術監督) [コンサートマスター] 豊嶋泰嗣 [管弦楽] 兵庫県立芸術文化センター管弦楽団_他	目標値	800
					実績値	883
3	アートマネジメント・舞台技術人材育成 (大学等との連携他)	平成30年4月1日～平成31年3月31日	兵庫県立芸術文化センター	[ゼネラルマネージャー] 林伸光 [事業部長] 永富志穂子 [舞台技術部長] 関谷潔司	目標値	-
					実績値	136
4	世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ 2018	平成30年6月9日(土)他	兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール他	[出演] オカリナ七重奏団GOB ナポリマンドリンオーケストラ カニサレスフラメンコ・カルテット	目標値	1,240
					実績値	1,500
5	文楽in Hyogo「恋女房染分手綱」	平成30年5月6日(日)	兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール	[出演] 人形浄瑠璃文楽座 太夫/豊竹呂太夫、三味線/鶴澤清友 人形/吉田和生(人間国宝・兵庫県芦屋市在住)_他	目標値	500
					実績値	636
6	なるほどバックステージツアー 2018	平成30年5月17日(木)他	兵庫県立芸術文化センター	[解説] 小山内秀夫(舞台技術アドバイザー) [案内] 劇場スタッフ_他	目標値	800
					実績値	649
7	ワンコイン・コンサート	平成30年4月24日(火)他	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール	[出演] PACアンサンブル、内藤里美(ソプラノ)、岩見玲奈(マリンバ)、 佛田明希子(オーボエ)_他	目標値	18,750
					実績値	25,377
8	多言語対応	平成30年7月20日(金)～29日(日)	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール	[指揮] 佐渡 裕 (芸術監督) [演出] ミヒャエル・テンメ [管弦楽] 兵庫県立芸術文化センター管弦楽団	目標値	-
					実績値	-
					目標値	
					実績値	
					目標値	
					実績値	
					目標値	
					実績値	
					目標値	
					実績値	
平成30年度の目標値、実績値					目標値	35,526
					実績値	42,147

## 【妥当性】

### 自己評価

事業計画に必要な構成要素が関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

兵庫県立芸術文化センターは、阪神・淡路大震災からの『心の復興・文化の復興』のシンボルとして設置。劇場に来館し気持ちを新たに日常生活を楽しむ『舞台芸術を通じて人とまちを元気にする』ことをミッションとし、「みんなの広場」として

①人々が元気で輝き続けるための劇場

②地域に愛される劇場

③にぎわい拡大の核となる県（圏）域における拠点劇場

を掲げ、地域の特性・ニーズと芸術文化センターの強みを十分に生かした、ひょうご舞台芸術魅力拡充事業を実施。下記の実績値より、開館から13年間『街のにぎわい』を継続しており、事業は計画通り実施されている。

(1)年間イベント数 H30 主催364・貸館343、普及イベント135 計842

(2)年間主催公演入場者数 H30 主催370,156人（貸館158,894人、普及イベント等258,331人計787,381人）

(3)開館13年のハイポイントで公演入場者数650万人を達成（H30.9）（主催・貸館含む）

(4)年間ホール稼働日数 331日（施設稼働率 平均97.2%）

(5)年間経営規模 30億円

(6)公演満足度 平均96.8%、施設の清潔さ満足度 平均93.6%

運営によってもたらされる大きな「経済波及効果（生産誘発効果）」（日本総研調査5年毎実施）[H27\_3回目実施]

年間効果額 県内71億円（全国149億円）[H22調査 県内71億円（全国145億円）]

\* 県投資効果10倍、開館後10年間の運営による累計（推計）県内687億円（全国1,423億円）

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

専門ホール、専門人材によって地域のニーズに応えた事業を実施。また、国際レベルを向上する事業を実施し、人材育成（基盤整備）に努め（若手出演者への出演機会提供、地元人材活用、他館との連携によるスキルアップ）助成継続に値する。

下記の各事業の達成状況より助成に値する文化的、社会的、経済的意義が継続して認められる。

1. 世界に向け発信する国際水準の創造公演の実施

海外鑑賞機会の少ない関西圏域において、質の高い公演を低価格で実現。ピギナーとリポーターを年々拡充（海外鑑賞「今回が初めて」平均18.2%）。演目は「定番」と「挑戦」を取り混ぜ、平成30年度は上演機会の少ない「魔弾の射手」を取り上げ、人間の精神性、現代人の社会的価値観について改めて考える機会を提供。関連イベントと共にホールプロジェクトとして展開し、まちのにぎわいを創出した。

2. 地域や世界に向けた人材養成事業の実施

・専属管弦楽団（通称：PAC）の設置は持続的な創造活動を支える柱であり、世界に向けて優秀な人材を輩出することで、国際レベルを向上。

・県内各地で行う「シーズン・オープニング・フェスティバル」は、地域の音楽文化の熟成と地域のにぎわい作りに寄与、県内文化施設スタッフのスキルアップに貢献。

・大学等と連携し、専門的知見を次世代につなげ、舞台芸術界を支える人材育成（基盤整備）に貢献。

3. 地域振興の一翼を担う普及事業の実施

・世界各地の音楽やパフォーマンスをシリーズで紹介、兵庫ゆかりの演目や人材を古典芸能で取上、地域の魅力を再発見する企画など県民の幅広い期待に応えた。

・兵庫・関西ゆかりの新進気鋭の音楽家による「ワコイン・コンサート」は、広範囲な集客を招き、舞台芸術ファンの裾野拡大と若手演奏家への演奏機会の提供による人材育成を図った。

・「バックステージツアー」は、舞台の裏側を見せることで、舞台芸術への興味を喚起し、うち1回を夏休み中に実施し、幅広い年代での来館を誘致。次世代に向けた芸術文化ファンの取込みを展開した。

## 【有効性】

### 自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

目標は、『開館から続く実績の安定・継続』。平成30年度も実績を継続（目標達成）。達成したアウトプットよりアウトカムが発現していることが認められる。

〈事業遂行によるアウトプット〉

- ・世界水準の芸術監督プロデュースオペラをはじめとする多彩な舞台芸術を、多くのファンに支えられ、高い運営実績を継続
- ・地域における『質の高い』創造芸術の発信を継続（創造性、企画力が高く特色ある実演芸術の継続発信）
- ・親しみやすい良質な公演など『幅広いニーズ』に応える公演を継続発信（幅広い年齢層へのアプローチなど裾野拡大）
- ・専属管弦楽団運営やアートマネジメント研修、若手演奏家の登用など優秀な人材を継続的に養成
- ・県内劇場とのネットワーク、県外劇場と連携、地域舞台芸術団体への支援を継続的に実施

〈アウトカム〉

a トップレベルとしての実績の継続

- ⇒芸術文化センターが発信するソフトへの支持・信頼・ブランド確立  
⇒我が国の実演芸術の水準向上と県民の鑑賞機会拡大

b 県民生活の質的向上、芸術文化を通じた地域創生の推進

c 劇場を核としたまちのにぎわいの創出

- ⇒劇場運営による経済波及効果及び地域経済活性化の促進  
劇場周辺商業動向（客数、売上）  
（阪急西宮ガーデンズ全館売上高の9期連続増収が確実\_2018. 3. 27繊維新聞）  
相乗効果、劇場と同じ地元志向の成果

d 人材を育て発信するアカデミー機能の充実

- ⇒実演芸術におけるスペシャリストの育成、兵庫から世界に優秀な人材を発信

e 県民が芸術文化を通じ、心の豊かさを実感できる社会の実現

- ⇒お客様の裾野をさらに広げ、劇場のにぎわいづくりを進化（初めての鑑賞者継続拡大）

f 地域の拠点劇場として地域文化振興の核となる

- ⇒芸術文化を通じたにぎわいを全県に伝播し、文化振興の核となる（県内展開実績）



## 【創造性】

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

①本格的大型舞台芸術劇場（リット・ハート 一体運営、安定的ソフト展開と安全・安心・快適な施設運営）

⇒3つの専門ホールを有し、世界水準の舞台芸術の上演を実施

大規模修繕工事を実施（H29.1~3）し、舞台機構更新、中ホール客席に車いす昇降機を設置

②専属管弦楽団（多国籍からなる若手演奏家）の創設・運営

⇒わくわくオーケストラ教室の実施（県内の中学1年生（約5万人全員）ホールで鑑賞）

県内外での公演、県内アウトリーチ活動など、地域における音楽文化の発展に寄与

③芸術監督等の芸術経営のプロフェッショナルの配置

⇒芸術家・専門家-行政・劇場-県民・地域のコラボレーションの成功

④芸術文化センター応援団

⇒ネーミングライツをはじめとした地元企業からの賛助。地域住民、先行予約会員の方に支えられて事業を実施

#### 【主な受賞】

関西元氣文化圏ニューパワー賞「兵庫芸術文化センター管弦楽団」H19

関西元氣文化圏賞特別賞 H23

地域創造大賞（総務大臣賞） H23

神戸新聞平和賞「佐渡裕と兵庫芸術文化センター管弦楽団」H23

関西元氣文化圏賞10周年記念特別賞「佐渡芸術監督」H25

ミュージック・ペンクラブ 音楽賞「兵庫芸術文化センター管弦楽団」H29

貝原俊民美しい兵庫づくり賞「佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラ」H29

関西元氣文化圏賞ニューパワー賞「スーパーキッズ・オーケストラ」H31

#### 【海外評価】

「トスカ」（2012年オペラ）が、芸術文化センターで制作したプロダクション（演出、舞台装置、衣装等）で、トリノ王立歌劇場で2016年10公演上演、ポローニャ劇場で2017年8公演上演

国内制作プロダクションがヨーロッパ有数の名門歌劇場の本公演として上演されることは極めて稀。芸術文化センター制作のオペラの海外評価を示す

## 【創造性】

### 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

#### 1 世界に発信する国際水準の創造公演

##### ① 佐渡芸術監督企画によるプロデュースオペラ

- ・世界トップレベルのキャストやスタッフの招聘により、国際水準のオペラ公演を実現
- ・ロングラン公演を継続（8～10公演）
- ・持続的な創造活動に基づき、劇場を核とした街のにぎわい創出

#### 2 人材養成

##### ② 専属管弦楽団の設置と「シーズン・オブ・ニング・フェスティバル」の開催

- ・アカデミー機能として優秀な人材を輩出し国際レベル向上に貢献
- ・芸術監督による地元中学生への公開マスタークラス実施等、地域との交流を通じて、音楽文化熟成とにぎわいづくり、県内市町村文化施設スタッフのスキルアップに貢献

##### ③ 人材育成（大学等との連携他）

#### 3 地域振興を担う普及事業

##### ④ 特色あるシリーズ企画

##### ⑤ 地元人材・題材による古典芸能シリーズ

- ・外国人にとっても魅力的な公演でありリビビック・パブリックの文化プログラムの一環として、日本の伝統文化を発信

##### ⑥ 「ワンコイン・コンサート」

- ・兵庫・関西ゆかりの新進気鋭の音楽家による親しみやすいプログラム、低額入場料公演は、舞台芸術ファンの裾野拡大と若手演奏家への演奏機会の提供による人材育成を図った
- ・演奏会終了後には、多数の来館者が周辺の商業施設を回遊し経済波及に貢献

##### ⑦ 「バックステージツアー」

- ・幅広い年代を対象に舞台芸術への興味を喚起し、次世代芸術文化ファンの取込を展開

#### 【地域連携】

地元商店街等による「西北活性化協議会」と連携し、地域連携イベントを実施

#### 【公立ホール等との連携】

兵庫県公立文化施設協議会会長（事務局）他

#### 【全国の公立ホール整備へ支援】

センター職員の委員就任、視察受入、講演等

## 【持続性】

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。  
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

「組織」「資金」「ハード」の中長期的安定・維持の取組

#### 【組織】

- ・安全・安心・快適な劇場空間、適正で効率的な劇場運営を支える体制を構築
- ・優秀な人材の確保・育成（継続雇用）を図りながら、円滑な世代交代を実施
- ・センター有期雇用者の中からプロパーに選抜し、正規雇用率を引き上げ中

#### ①人材の確保

- ・県予算と独自財源（運営収入）により人材確保
- ・能力適正評価により中核職員を管理監督職へ登用（昇格）
- ・内部選考によりスタッフ職を中核職員へ採用（無期雇用化・正規化）

#### ②人材の育成

- ・管理監督職、専門人材等を中心にOJTを実施
- ・OB職員（専門人材）の再雇用→ ノウハウ等の継承、円滑な世代交代
- ・主催研修（アートマネジメント講習等）、外部研修へ積極参加
- ・委託事業者との密な情報・意見交換 → 切磋琢磨によるホスピタリティの向上等

#### 【ネットワーク構築】

#### ①劇場・音楽堂等間のネットワーク形成

- ・県内施設で事業を実施し市町文化施設職員のスキルアップに貢献
- ・他の文化施設からの研修生受入

#### ②教育機関とのネットワーク形成

- ・大学や講習会等の講師として職員を派遣
- ・研修生（地元大学生）、インターンシップ、職業体験（中高生）の受入
- ・わくわくオーケストラ教室の実施（兵庫県内の中学1年生（約5万人全員）ホールでの鑑賞）
- ・楽団による小学校アウトリーチ（特別支援学級含む）

#### 【経営安定化戦略】

- ・県費で維持管理費（人件費含む）を確保
- ・事業費も補助金でベース資金を確保
- ・各種公演ごとに協賛金、民間助成金の獲得努力
- ・ネーミングライツ、賛助会員（地元企業の応援）の獲得・継続努力

委託業者間とのミーティング（週1回）、経営会議（月2回）等による部門間の総合調整を行い  
運営委員会（年1回）で中長期的方針を決定。

安定した事業実施の為に、施設・設備の適正なメンテナンス・改修計画を策定、実施。